

浜松市営墓園・墓地のあり方を検討する有識者会議報告書

浜松市営墓園・墓地のあり方を検討する有識者会議

座長 西田 かほる

はじめに

現在、日本全国では少子高齢社会や家族の小規模化の進行といった、社会情勢の変化に伴い、管理する親族がいなくなり荒れてしまった無縁墓や後継ぎが不要な墓の登場など、墓に関する問題や変容が顕在化してきている。

浜松市でもそれに漏れず、「浜松市地方創生総合戦略（令和7年3月改定版）」が示すとおり、浜松市の将来推計人口は、2020年の79.1万人から2050年には65.7万人へ減少する見通しで、少子高齢社会や世帯構造の変化による単独世帯、小家族世帯の増加は確実に進行している。こうした状況に対応するため、抜本的な対応が求められている。

内容検討中

こうした社会情勢や市営墓地の船明墓地が平成24年度の供用開始から14年が経過し見直しの時期が来ていることから、現在の市民ニーズを確認するため、令和7年度に市民アンケート調査を実施した。アンケートでは、面積の小さい区画や樹木葬・樹林葬墓地の市民ニーズが高かった。

本書では、上記のような社会情勢、浜松市の市営墓園・墓地運営の現状、市民ニーズを踏まえ、「浜松市営墓園・墓地のあり方を検討する有識者会議」にて協議した結果を取りまとめて報告する。

方向性

1 市営墓地は、公共性・永続性の観点から、市民生活に不可欠なサービスとして提供する

アンケートでは、市営墓地への市民ニーズが高いため、ニーズに対応した供給数が必要となる。また、市営墓地の「平等な運営」が望まれている。

内容検討中

2 今後 15 年間で必要となる約 26,000 人分の埋葬先を整備する

整備数は次表のとおり整備する必要がある。

区分	一般墓	合葬墓			合祀墓	合計
		樹木・樹林	その他	計		
三方原墓園	1,500	1,900	1,350	3,250	16,000	20,750
船明墓地	390	470	340	810	4,000	5,200
合計	1,890			4,060	20,000	25,950

内容検討中

市営墓園・墓地のうち、整備余地のある三方原と船明を整備する。今後、船明墓地整備予定地のうち、必要数の整備を整備し、不要な土地は他用途への転換を図る。

【主な意見】

- ・三方原墓園内には噴水スペースに合葬・合祀墓を整備する。
- ・日本庭園は工事に費用がかかるが、噴水であったところであれば工事がしやすいと思われる。

3 一般墓は市民ニーズの高い小区画を整備する

市民ニーズでは小さい区画が不足しているため、一般墓の区画を細分化し、供給数を増やす。

内容検討中

4 合葬墓・合祀墓の整備を進める

後継者が不要な墓に対する需要が多い。樹木葬の雰囲気を取り入れた合葬墓・合祀墓を整備する。

【主な意見】

- ・同一墓地内に改葬先と
- ・現在、市営墓地にはない樹木葬が求められる社会情勢となっているため、

内容検討中

5 墓地貸付は有期限化し更新制とする

貸付に期限を設け、期間満了時に更新料を徴収することで後継者が不要となる。なお、更新回数の制限は設けない。

内容検討中

6 墓地使用料を見直す

①貸付料

- ・整備費用や地価に合わせて見直す。

②管理料

- ・平成24年3月以前に貸し付けた墓地の管理料を徴収し、市営墓地の全利用者から管理料を徴収する。
- ・管理料をすでに徴収している者は5年一括払いから1年払いへ見直す。
- ・貸付料・管理料の支払方法を拡充する。

内容検討中

7 墓じまい需要に対応した制度を創設する

市営墓地区画から、新設する墓地区画へ移転や、利用者のうち低所得者を対象にした墓石撤去を希望する者への対応を検討する。

内容検討中

8 市営墓園・墓地の情報提供の種類や場所を充実させる

内容検討中